

第25回フォーラム：子ども虐待の真髄に迫る！ 第1分科会

たくさんの道しるべと歩み続ける力をもらった分科会

徳島県子育て総合支援センター「みらい」 松浦 睦

希望の光を求めて・・・

私が所属する徳島県子育て総合支援センター「みらい」は、県内の子育て支援関係者のネットワーク作りや研修会の開催等を行っている県の機関です。

当センターでは今年度、念願だったBPファシリテーター養成講座を2回実施いたしました。1回目は大型台風直撃の中、2回目も大雨の中で何とか実施し、34名の方が修了されました。現在、忙しい子育て支援業務の合間をぬって資格取得をめざしています。ただ、その道のりは決して平坦ではありません。まだ地域と繋がっていないお母さんたちに情報を届けるためには、市町村と母子保健関係者の理解を得て、連携をはかることが非常に重要になります。プログラムの説明と協力依頼は続けていますが、やはり新しいことを始めるというのは一筋縄ではいきません。せつかく徳島県に芽吹いたBPプログラムの芽を枯らしてはいけないと模索の日々が続いています。

そんな中開催された今回のフォーラムは、私にとって希望の光でした。2年前にも参加させていただいたのですが、同じ目標に向かって頑張っている方が集まる場に生まれる、お互いをエンパワメントし合うあの空気に触れることができれば、きっとまた踏ん張る力をもらえるに違いない！そんな期待を胸に、12月20日早朝、忘年会明けの寝不足の身体を何とか叩き起こしてバスへと飛び乗り、暴風雨吹き荒れる徳島を出発したのでした。

実践報告で示された様々な道しるべ

曇り空の大阪で始まった全体会では、BPプログラムとファシリテーターの重要性を改めて認識することができ、わずかでもそこに関わることができていることに感動しながら、午後の分科会へと入りました。(以降、コーディネーター及び実践報告者の皆さんの敬称は、BPプログラムの技法に倣い、「さん」で統一させていただきます)

私が参加した第一分科会は、『各地の実践から「親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた！”を学ぼう！』と題し、KKI副代表である山野則子さんをコーディネーターに、全国で先進的な活動をされている5名の方がそれぞれの取り組みについて発表してくださいました。簡単にではありませんが、順番にご紹介をさせていただきます。

まず最初に発表して下さったのは、昨年度まで神戸市東灘区の保健福祉部医務担当部長として勤務しておられた、小児科医の吉岡伸子さんです。東灘区では平成25年度から地域団体と区役所が協力し、BPプログラムを実施されています。10年以上子育て支援センターを運営してきた方や主任



児童委員を中心に区がファシリテーターを養成し、2回のプログラムを実施、34組の親子が参加されました。また、フォーラム当日は区の担当者も出席されており、委託費の内訳や実施における役割分担等、地域と行政が連携できている例を示してくださいました。

続いて、大阪府箕面市が運営する子育て支援センターでBPプログラムを実施している、保育士の米山玲子さんが発表してくださいました。箕面市では、支援センター全職員5名に加えて民間のスタッフ9名がファシリテーターとして活動されています。広報には赤ちゃん訪問や市報、希望者へのメール配信等を活用される他、より早い段階からプログラムについて知ってもらうため、センターで実施しているプレママ講座でもお知らせをされているそうです。その他、参加対象とする赤ちゃんの月齢幅を縮小し、その分年間の実施回数を増やすことで、本来の対象である2～5か月間に受講のチャンスをもっと設けるといったポイントも教えてくださいました。

次に、大阪府枚方市より委託を受けて運営している、ファミリーポートひらかたセンター長の山下裕美さんが発表してくださいました。ファミリーポートひらかたは、母体として児童養護施設を運営しているという特徴を持っており、子育て短期施設利用の他、24時間の電話相談も実施されています。ここでは、奇数月にBPプログラムを実施しており、偶数月は様々なテーマの行事を行いながらBPプログラムの参加者募集を行っているそうです。また、2～5か月児をもつ多くの親は情報を届ける手段が限られていることから、市と協働・委託を受けて実施することの大切さについてもお話してくださいました。

次に、広島県東広島市こども家庭課で、家庭相談員をされている土居和子さんが発表してくださいました。東広島市では、BPプログラムを虐待未然防止対策として取り組まれていることが大きな特徴でした。加えて、市の事業として本格実施

行政発信でBPに取り組むということ

するにあたり、＜支援者にプログラムについて知ってもらう→養成講座を受講してもらう→独自開催にむけて＞という3か年計画を立て、それに基づき進めているそうです。BPプログラムが市のスタンダードとして定着するよう様々な働きかけをされており、来年度に向けて母子手帳と一緒にBPプログラムのちらしを配布したり、母子手帳の中にBPプログラム参加のゴム印を押す計画を進めたりされているそうで、BPプログラムの新しい立ち位置を示してくださいました。

最後に、新潟県新潟市豊栄児童センター長である伊藤弘子さんが発表してくださいました。平成23年度から新潟市主催で養成講座を開催していましたが、その後ファシリテーターが自主的に集まり、意見交換や研修会での内容の共有等を行っていたそうです。大切なポイントは、その集まりを重要視し「KKI新潟」として新潟市のファシリテーターを組織化したところかと思えます。「KKI新潟」では、メーリングリストを活用した情報の共有、市内でのBPプログラムの開催状況をまとめたHPの開設、資質向上のための研修会の開催等の活動をされているそうで、ファシリテーターの新たな在り方も示してくださいました。

悩みの共感と知識の共有を

10分間の休憩の後、今度は全員参加の質疑応答に入ります。会場から出た質問等に、山野さんと実践報告者が事例も交えながら答えてくださいました。例えば、ファシリテーターとして活動しているスタッフとそうではない関係者間で、BPプログラムの目的等についてしっかりとした共通認識をもつことの難しさについて意見が挙がった時には、「うんうん」と頷いている参加者も多く、共通する悩みのような感じでした。また、ファシリテーターが「手を出さない」「黒子に徹する」ということの真意については熱い議論が交わされ、実践報告者からは、「手助けしようかととても迷ったお母さんもいた。しかし、そこで手を出して困り事をすんなり解決してしまうと、そのお母さんはきっと「やっぱりプロは違うな、私にはできないのに…」と感じてしまったと思う。それではお母さんが本来もっている力を引き出すことはできないし、成長の機会も奪ってしまうところだった」というエピソードが紹介されました。山野さんは、「手を出さない・見て見ぬふりをする、という言葉の意味を間違えてはいけません。ファシリテーターはお母さんの様子や言葉を十分に観察し、把握した上で、自分たちで乗り越えるためには黒子としてどのような働きかけが必要なのかを考え、そっと影から導かなくてはならない」と、BPプログラムの信念とも言える部分を熱くお話してくださいましたあと、「ただ、子育て支援に従事している人は、もともと困っている人を放っておけない気持ちを持っていて、その点では皆さん最

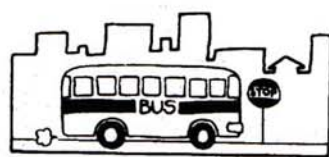
初は悩むところはありますよね」と、支援者としての気持ちにも寄り添ってくださいました。

終了時刻ぎりぎりまで活発なやりとりが続いた様子からも、参加者の関心の高さと、現在抱えている悩みについて何かもって帰ろうという強い意志が感じられました。（私も滑り込みで質問をさせていただきましたが、そのせいで実践報告者の一人一言の時間を奪ってしまい、皆様失礼をいたしました。が、貴重な回答をいただくことができるとても嬉しかったです。）

皆さんとのつながりを力に変えて

フォーラム終了後、皆さんが帰っていかれる中、私はモゾモゾと会場に残っていました。というのも、実践報告者の方にもう少しだけ聞いてみたいことがあったからです。そんな私の気持ちに気づいてくださったのか（あるいは不審だったのかもかもしれませんが）東広島市の土居さんが、「さっきは時間がなかったのだけど…」と、質疑で挙げた質問に対して改めてアドバイスをくださり色々とお話をさせていただくことができました。同じ行政発信でBPプログラムに取り組む先輩として、とても貴重な意見をいただくことができた私は、帰り際に山野さんほかKKI関係者に次々と声を掛け、温かいお言葉とアドバイスをいただき、すっかりエンパワメントされることに成功したのでした。嬉しいことはまだ続きます。最寄り駅でKKI新潟の皆さんが声を掛けてくださり、何と途中まで帰りをご一緒させていただきました。道中、まだ駆け出しの本県の話に耳を傾け、共感して下さり、「確かに時間はかかる。けど大丈夫！良さをしっかりと伝えていきましょうね！」ととても素敵な笑顔で応援してくださいました。

雨雲もはれて徳島へと帰るバスの中、私の心はぼかぼかとしていました。直接お話しできなかった参加者の方も大勢いますが、あの場に集った皆さんのことを、同じ志をもった（勝手ではありますが）心強い仲間だと感じています。最初に書いたように、一筋縄ではいかない状況が続くと、いつしか周りが見えず、その場で一人もがいているような錯覚に陥ってしまうことがあると思います。しかし、私も徳島県はじめ全国のファシリテーターの皆さんも、決して一人ではありません。全国には素晴らしい知恵とパワーをもった仲間がたくさんいます。苦しくなった時には皆さんの想いに耳を傾けてみようと思いますので、その際はぜひ徳島の地へパワーを送ってくださいね。



最後になりますが、全国の親子と、ファシリテーターに、素晴らしい仲間との出会いを授けてくださったKKIの皆さんに御礼を申し上げてまとめさせていただきます。